



日本人とキリスト教  
復活と転生、同伴者、厳父と慈母、  
そして弱者の罪の救いと、悪——。

『深い河』の磯辺とその妻、大津、美津子、沼田、木口、塚田  
それぞれを支柱とし、『沈黙』をはじめとした数多の遠藤作品を  
繙きながら独自の視点で遠藤のカトリシズムを追究する。  
遠藤文学における弱者と絶対的な悪、罪、そして神の姿とは。

# 遠藤周作の影と母

## 深い河の流れ

新木安利著

◆目次◆

第1章 復活と転生

磯辺と妻の場合

第2章 厳父と慈母 罪と悪

大津と美津子の場合

第3章 同伴者 沼田の場合

第4章 罪と救い

木口と塚田の場合

第5章 玉ねぎと復活

それぞれのインド

新木安利 (あらき・やすとし)

1949年、福岡県椎田町(現・築上町)に生まれる。北九州大学文学部英文学科卒業。元図書館司書。1975年から松下竜一の『草の根通信』の発送を手伝う。

【著書】『くじら』(私家版, 1979年), 『宮沢賢治の冒険』(1995年), 『松下竜一の青春』(2005年), 『サークル村の磁場』(2011年), 『田中正造と松下竜一』(2017年), 『石原吉郎の位置』(2018年), 『石川啄木の過程』(2019年, いずれも海鳥社)

【編著書】前田俊彦著『百姓は米を作らず田を作る』(海鳥社, 2003年), 『勁き草の根 松下竜一追悼文集』, (草の根の会編・刊, 2005年), 『松下竜一未刊行著作集』全五巻(海鳥社, 2008年~2009年)

四六判／並製／504頁／定価(本体2800円+税)

※返品はフリー入帳

ご発注は海鳥社 FAX092(272)0121まで

取扱取次▶トーハン／日販／地方・小出版流通センター

書店番線印	注冊数	ご担当者印	新木安利著 遠藤周作の影と母 深い河の流れ
	冊		